



第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体2022」のソフトボール競技少年の部で10月10日、佐賀女子高校が優勝を飾りました。佐賀女子高校の国体優勝は平成20年以来14年ぶりとなります。この時は絶対的エースの藤田倭選手（東京五輪ソフトボール競技金メダル・MVP）が在籍していた時期です。

「現在のチームは投手が苦しい時は打線が、打線が振るわない時は投手が踏ん張る団結力の強いチームです」と、津上監督から聞いていました。その本領を発揮しての勝利だったと思います。

ソフトボール部は3月の全国選抜で2連覇を果たしたものの、8月の全国総体は5位。選手達が一番悔しかったのではないのでしょうか。その時の思いを胸に気持ちを切らすことなく精進したことで、国体優勝を勝ち取りました。

佐賀女子高校はこれまで、ソフトボールだけでなく、新体操、バドミントン、そして合唱が日本一に輝き、毎年全国上位に顔を出します。高い目標を持った生徒や指導者が刺激しあい、励ましあっています。こうした熱く、温かい校風が佐賀女子高校の魅力です。

10月13日、地元佐賀新聞の記者コラムにスポーツ担当の方が寄稿されたタイトルは「ココロヒトツ」。そこには、今国体で5位となったバドミントン部が決勝戦の会場に応援にかけつけ、同級生に声援を送った様子が記されていました。新体操部の選手たちも動画配信を見ながら佐賀から声援を送っていました。優勝が決まると「日本一のチームを温かく迎えよう」と、試合の動画の編集にかかる先生、横断幕を用意する先生、報告会に参加する生徒決めなど、12日の報告会に向け、すぐさま準備が始まりました。その全校あがりの連携プレーには、「さすが伝統校！」と感心しました。

国体から帰還した選手や監督、コーチ、帯同教諭の話聞くうち、規則正しい生活を送り、厳しい練習に耐える日々の暮らしぶりを知っているだけに、目頭が熱くなりました。

感動をありがとう！！

そして皆様、応援、本当にありがとうございました。

* 13日から既にグラウンドからは生徒たちの声が響いています。
体育館からも掛け声が聞こえます。次に向かって、生徒たちは動き
始めました。これからも佐賀女子高校へのご支援を宜しくお願い致
します。